

『百人一首』中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

白露に風の吹きしく秋の野は つらぬきとめぬ玉ぞ散りける

文屋朝康

〈歌意〉

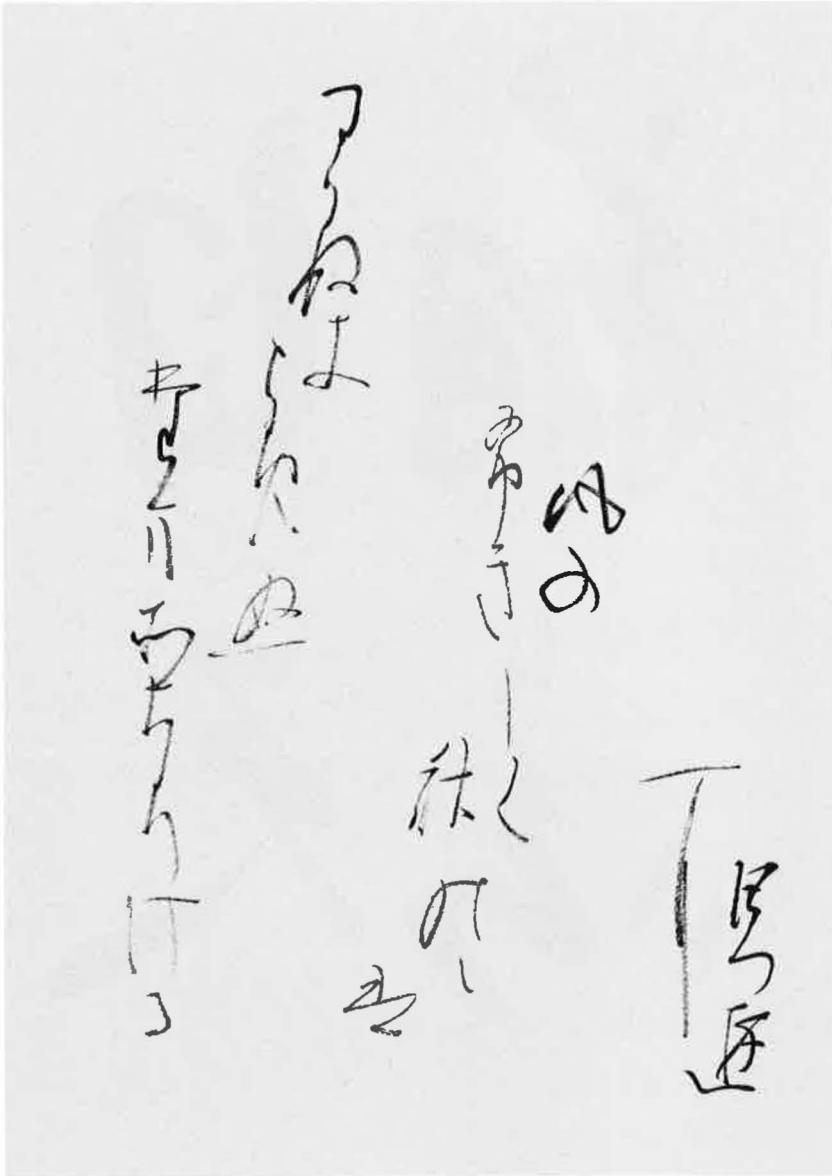
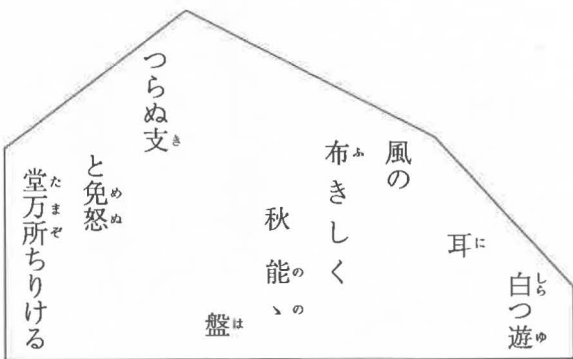
「草の葉に降りている露にしきりに風が吹きつける秋の野では、まるで糸で貫き留めていない玉のように、露が散っているなあ。」

〔出典〕『後撰集』(秋・三〇八番)

(文屋朝康)

九世紀後半から十世紀初めの人で、文屋康秀の子。

〈よみ〉



中村素堂先生の書

晝間欽堂先生提供